

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：斉藤 親

事業名	小田急小田原線(世田谷代田駅～喜多見駅間) 連続立体交差事業		事業区分	街路	事業主体	東京都
起終点	自：世田谷区代田三丁目 至：世田谷区喜多見九丁目		延長	6.4km		
事業概要	小田急小田原線の世田谷代田駅から喜多見駅間6.4kmの区間を連続立体交差化・複々線化し、17箇所の踏切道を解消するとともに、8箇所の都市計画道路を立体化し、あわせて側道を整備することにより、交通渋滞の解消や鉄道により隔てられていた街の一体化を図る事業である。					
H6年度事業化	S39年度都市計画決定 (H5年度変更)	H6年度用地着手	H6年度工事着手			
全体事業費	788億円		事業進捗率	80.7%	供用済延長	6.4km
踏切遮断交通量	45万台時/日					
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 1.2	総費用 (事業全体) 617億円 事業費：617億円 維持管理費：億円	総便益 (事業全体) 717億円 走行時間短縮便益：679億円 走行費用減少便益：31億円 交通事故減少便益：2億円 高架下利用便益：5億円	基準年 平成15年		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 踏切除去による交通渋滞の解消 踏切事故が無くなり安全性が向上 地域分断解消による地域の発展 駅施設の利便性向上 など 					
関係する地方公共団体等の意見	平成8年3月に旧建設大臣、東京都知事宛に事業促進要望書(11万人署名)が提出されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成14年12月に17箇所の踏切全てが除却されたことにより、道路交通の渋滞が解消されるとともに、地域の一体化が図られつつある。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年12月に事業区間の在来線を全て立体化して17箇所の踏切全てが除却された。 事業の進捗状況は、平成16年1月末現在、複々線部分も含めて全ての高架橋の構築を完了しており、残る複々線化の工事と関連側道等の工事を進めている。用地については、一部の用地補償協議が難航しているが、約99%の取得率である。 					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> 未取得用地の地権者の中に事業認可取消訴訟の原告適格者などもあるが、平成16年中に用地買収を終了すべく交渉を行っている。 未取得の用地があるが、関連側道の工事を進めて事業完了を目指している。 					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。